

# おのころ島神社

カイワレ

## ～大鳥居～

日本三大大鳥居に挙げられるほど、大きな鳥居が特徴です。

高さ21.7m 笠木31.2m  
遠くから見た時点で「でかつ」と声が出る巨大さです。

しかし、中に入ると敷地は決して広いわけではなく、鳥居だけが無意味に大きい印象を受けます。

これはやはり、日本のはじまりの地だぞ！という主張なのでしょう。ちなみに他の大鳥居は平安神宮と厳島神社です。実は平安神宮の鳥居は24mあり、高さでは負けています。



## ～由来～

御祭神は伊弉諾命（イザナギノミコト）と伊弉冉命（イザナミノミコト）。

古事記・日本書紀によれば、神代の昔、国土創世の時に二神は天の浮橋にお立ちになり、天の沼矛を持って海原をかき回すに、その矛より滴る潮が、おのずと凝り固まって島となった、これが自凝（おのころ）島である。

二神はこの島に降り立たれ、八尋殿（やひろでん）を建て、先ず淡路島を造り、つぎつぎと大八洲（おおやしま）を拓かれたとなっている。

また、古書に応神天皇、淳仁天皇の参幸されたことが伝えられている。（自凝島神社略記より）



※淡路島の中でも、おのころ島の場所は沼島としたり、絵島とする説など、いろいろあるようです。また、読みにくいのか「おのころ」とひらがな表記されることが多いのですが、漢字で書くと「自凝」で、“おのずからこりかたまる”という意味があります。

## ～古事記・日本書紀を読み直す～

家に帰って、古事記と日本書紀を読み返してみました。自分にとってですが、新しい発見があったので、報告します。

まず、すでに知っていた知識から。イザナギ・イザナミは知っています。柱の周りを回って、子どもなんだか神なんだか島なんだか、いっぱい生んだ最初の人。

おのころ島という名前は、矛でかき混ぜたときに「こおろ、こおろ」と音がしたから。淡路島が最初だったかどうかはよく覚えていないが、第一子第二子はひることか言って、できそこないだから流しちゃえ～、とか言っていた。今の日本列島をつくった。そんな感じ。

以上の知識は、おおむね正解です。淡路島は一番最初に生んだ島として書かれています。ただし、それはすべて古事記の記述。

今回驚いたのは、日本書紀の内容です。引用してみます。

『子が生まれるときに、まず淡路洲が第一番に生まれたが、不満足な出来であった。そこで名づけて淡路洲（吾恥島）という。それから大日本豊秋津洲を生んだ。』

淡路島、不満足と言われています！ ひどい言われようです！

もう一点。日本書紀全体を通した特徴らしいのですが、異伝が並列して書かれています。『一書に曰く』（別の本にはこう書いてある）として、その1、その2……その10まで、こんな説がある、と延々書いてあるのです。いろいろある異説をまとめて一本にまとめる作業を「編纂」というのではないのか？ と思いますが、とにかくそうになっています。国生みの部分だけ見ると、本文よりも異伝のほうが2倍の分量あります。日本書紀が読みづらいという話は、こういうところにもあるかと思われます。

## ～御朱印を頂きました～

最近、御朱印帳なるものを購入して、行く先々で神社による機会があれば、記帳してもらっています。

今までは、一旦預かれて奥で書いたものをもらっていたので、目の前でサラサラ書いてもらったのは、わたしにとっては珍しい体験で、うれしいコレクションが増えました。

